

令和6年度の学校評価（反省と課題）

<p>6年度の 重点目標</p>	<p>①社会の動向や教育界の動きを視野に入れて、時代に対応した教育活動を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通コース及び国際理解コースの教育内容の一層の充実に努め、グローバル化、情報化などの社会の変化に主体的に対応する能力を育成する。 ・地域の人的・物的資源等を活用し、キャリア教育の充実と職業観の育成を図る。 ・ICTを活用した授業実践を研究し、生徒の個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に努める。 ・持続可能な開発目標であるSDGsの視点を踏まえた学びをより一層推進する。 ・学校図書館の活用を通して、主体的、意欲的な読書活動の充実に努める。 <p>②行動力と思いやりを備えた、地域を支えるリーダーとなる生徒を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、部活動やボランティア活動への積極的な参加を促し、生徒自身が統率力、協調性、粘り強さ、社会性を持ち、主体的に行動できるようにする。 ・学習指導要領改訂や高大接続改革の趣旨を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行い、生徒の自ら考え自ら行動する力を育む。 ・実践的な防災・減災教育に取り組むとともに学校や地域の防災力に貢献できる防災リーダーの育成に努める。 <p>③清潔で落ち着いた教育環境、安全・安心な学習支援体制を整備し、規律を守る品位・品格ある心身ともに健康な生徒を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他の生命尊重の理念のもと、交通安全意識と交通マナーの向上に努めるとともに、他の人々や地域の安全に貢献できる生徒を育てる。 ・教育相談の充実に努めるとともに、スクールカウンセラーや関係機関との連携を図り組織的かつ迅速に適切な指導及び支援を行う。 ・日常の清掃活動を通して高い衛生・環境意識を醸成する。 <p>④効率的・効果的な業務遂行の機運を醸成し、教職員の多忙化解消を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムの活用を一層推進するとともに、情報共有や連絡調整に係る手段をペーパーレス化するなど、ICTを活用した校務の効率化をより一層強化する。 ・学習や部活動における生徒の主体性を生かし、運営方針を遵守した部活動指導を行い、全ての教職員がタイムマネジメントを意識した業務を心がける。 <p>⑤時間外労働の上限の目安時間を次のように定める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1か月の在校等時間について、時間外労働45時間以内とする。 ・1年間の在校等時間について、時間外労働360時間以内とする。
----------------------	--

項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
<p>広報活動 （総務部）</p>	<p>P T A活動の活性化と内容の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・P T A理事会における講演会の充実に努める。 ・広報「ひがし」の内容を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本公演新聞中部コラムニストの山本孝弘氏による自身の取材における様々な出会いに関する講演を行った。 ・広報「ひがし」、年報「ひがし」を編集・発行し保護者への情報提供を充実させた。来年度もより充実した広報活動を行いたい。
<p>学習指導 （教務部）</p>	<p>担任業務の軽減、紙媒体の使用削減のための新学習支援システムの有効活用の研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習支援システム（スクールエンジン）を積極的に活用し、業務軽減を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度新より学習支援システム（スクールエンジン）での調査書作成が始まった。生徒指導要録と調査書の記載内容と整合性をはかるために、進路指導部や第3学年との調整や連携を密にし、調査書の作成を少しずつ進めることができた。 ・教員がスクールエンジンを使いこなすスキルを身につけることによって業務の軽減が可能になる。教員間で情報交換を密にし、教務に寄せられ意見を適切に還元していきたい。
<p>読書指導 （教務部 図書担当）</p>	<p>情報発信の場としての学校図書館の役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な課題等の解決のためにデータ、情報を手に入れる場としての図書館づくり。 ・Q O Lを高めるために読書活動を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、classiも使い情報発信に努めた。 ・図書委員が自分たちでテーマを決め本の展示を行ったり、図書通信で本の紹介を行った。また、読書会や教養講座では、司会進行をしたり感想を言ったり書いたりした。自分たちで考え工夫し、積極的に活動することができた。 ・七夕やクリスマス、受験など、季節の応じたコーナーを作った。多くの生徒たちが図書館に足を運んでくれ、図書館を身近に感じてくれる機会になったと考える。 ・いくつかの授業で図書室が積極的に利用され、蔵書などを有効に活用することができた。来年度も、継続的に更なる利用を促したい。情報が古くなってきている資料もあるので、精選したい。
<p>研修 （研修部）</p>	<p>ICT機器を活用した効果的な授業の推進 国際理解コースの活性化と外部への魅力発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校外の公開授業や校内研修等を通してICT機器の効果的な活用方法を研究する。 ・国際理解コースの行事内容を工夫する。国際理解コースだよりやホームページなどを活用し、魅力を外部に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいちラーニング推進事業に伴い、校内校外を対象とした講演会や公開授業を開催し、ICT活用の意義や方法について学んだ。プロジェクター配備やロイロノートの活用研修も昨年に引き続き行い、多くの授業でICTの活用がしやすい環境を整えた。 ・国際理解コースの新たな行事として本年度から「JICA訪問」を実施し、従来からのイングリッシュキャンプとともに、興味を引き出す工夫をした。今後の課題として

			ホームページ等を十分に活用し、従来より作成している「国理だより」とともに広報活動にも努めたい。
生徒指導 (生徒指導部 生活担当)	交通事故の防止と、 より一段高い交通安 全意識の啓発	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全指導の実施 危険個所での指導の徹底 交通安全講話等による啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 学期初めを中心に学校周辺を重点として、立番指導を実施した。 新設された通用門の利用における注意を促し、交通事故防止に努めた。 生徒会与連携して交通安全運動を実施し、交通マナーの向上に努めた。軽微な交通事故はあったが、幸い大きな交通事故は発生していない。
生徒指導 (いじめ対策 委員会)	いじめの未然防止と 早期発見	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケート、相談アンケート、学期始めの担任による面接等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期始めの担任面接で、悩み事などの相談に応じた。学校生活アンケートを実施し、いじめの状況把握に努めた。 校外学習や修学旅行では、良好な人間関係が作られる行事になるように活動内容を工夫した。 人権講話等で人権の大切さを説いた。
生徒会活動 (生徒指導部 特活担当)	生徒会行事の内容検討 と生徒会活動の活 性化	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会行事の内容検討と綿密な計画 生徒会活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> アイプラザ豊橋での文化祭開催は、昨年より盛況の中無事終了することができた。クラスマッチや体育大会でも生徒会執行部が献身的に運営の補助をした。次年度に繋げていきたい。 公約で掲げた、有志の中庭コンサートを実施することができた。今後も生徒主体で、生徒にとって価値ある活動を企画し実行していきたい。
進路指導 (進路指導 部)	キャリア教育の充実 と生徒の進路目標の 実現	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の定着及び充実を図る。 各学年、時期に応じた進路指導を学年団と進路部で連携して体系的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生に関しては HBC、2年生に関してはゼミ体験や大学模擬授業などの行事を定着させることができた。また、夏休み中の大学との連携事業や、ジョブシャドウイングなどの取り組みもでき、充実させることができた。今後も継続していきたい。 学年集会を効果的に取り入れたり、必要に応じて進路検討会を行うなど、適切な進路指導を行うことができた。引き続き、3年間を通しての指導を模索していきたい。
保健活動 教育相談 (保健環境 部)	こころとからだの健 康保持増進	<ul style="list-style-type: none"> 自ら熱中症予防及びけがの予防につながる行動選択をとることができる生徒を育成する。 健康講座を各学年で計画し実施する。 ストレスマネジメントを活用したセルフコントロールのできる生徒を育成する。 救急法講習を通して、災害時や緊急時の対応力の強化を図るとともに地域の防災リーダーを育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 熱中症対策となる朝食摂取率は(第2学年2クラス 抽出)は、91.2%で例年並みであった。来年度も引き続き熱中症対策に力を入れたい。 3年生対象の産婦人科医による講話は、関心を持って参加し、ライフスキルとしての性教育を学ぶことができた。1年生は睡眠の重要性について学んだ。メンタルヘルスにもつながる、健康の基盤である睡眠について振り返る機会ともなった。2年生は3月に「がん」について学んだ。 「こころと体のセルフチェック」は、ストレスの原因について振り返ることができるため、次年度も継続していきたい。 防災に関しては、保健委員を中心に、文化祭企画、保健だより、救急法講習会等を通して、緊急時の対応力を向上させる取組を行った。
1年学年会	東高生としての自覚 を持たせ、学習・部 活動・行事に積極的 に取り組む姿勢の育 成	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 学習習慣の確立 部活動や行事への参加 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を確立している生徒がほとんどであるが、健康状況調査ではスマートフォンが手放せず、睡眠時間の少ない生徒が多い傾向にあった。学年集会や生徒面談の機会を利用して、丁寧な指導をした。 多くの生徒が積極的に部活動に参加し、学習との両立を果たした。メリハリをつけて取り組めるよう、日々の学習記録をつけて学習時間の振り返りをし、生活をより良く改善するよう促した。 進路目標について、まだ明確になっていない生徒が多い。そのため、来年度は進路目標を具体化させて、具体的な行動に落とし込みたい。 行事では主体的な姿が随所に見られ、生徒同士で積極的に意見交換しながら協力してクラス企画を創り上げた。来年度も、主体性を発揮できる環境を整えたい。 様々な学校行事を経るごとに学級の仲は深まり、良好な関係を築けた。来年度も継続させていきたい。

2年学年会	<p>明るく落ち着いた規律ある高校生活の充実</p> <p>計画的な学習と学力の定着</p> <p>将来の目標を見据えた進路意識の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動、学校行事における中核学年としての自覚ある行動 ・協調性、社会性の育成 ・予習→授業→復習の学習サイクルの定着 ・家庭学習の習慣化 ・具体的な進路目標の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校祭や修学旅行、部活動等に積極的に参加した生徒が多かった。修学旅行では、班別研修等において仲間と協力しながら計画を立てることに加え、個々の学びの充実を図りながら、常に学年全体の動きも意識して行動することで、社会性・協調性を大きく向上させることができた。生徒にとって良い学びの機会とすることができた。また、部活動においては、各部の中心として活躍し優秀な成績を取めた生徒もいた。 ・ほとんどの生徒が落ち着いた学校生活を送ることができた。スマートフォンの利用については、今後も継続的な指導が必要である。 ・予習→授業→復習の学習サイクルの定着に向けて、学年集会や授業等における全体に対する声かけと、個別での面談を実施した。1年次に比べ、学習習慣の定着率は高かった。受験を見据えた適切な声かけ、課題の内容と量等、学年で検討を続けていきたい。 ・「総合的な探究の時間」における学び、担任による面談、進路講演会等を通し、進路意識を高めさせることができた。今後、各大学の志望理由が明確になるように指導していきたい。
3年学年会	<p>進路目標達成への継続した努力</p> <p>たくましく生きる生徒の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向けた学習指導と学習支援の充実 ・面接指導と時期に応じた生徒への適切な声掛け ・主体的な行動を促す機会の設置 ・社会に出るための人間性の育成 ・強い心を育む 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業だけでなく平常課外や土曜学習会を充実させ、多くの生徒が参加する中で、良い学習環境を維持することができた。 ・時期に応じたきめ細やかな学年指導と、担任による面接指導により、志望校合格への意識を高め、個々に応じた支援をした。 ・文化祭や体育大会など行事を中心に、クラスが意欲的かつ主体的に取り組み満足いく結果を出すことができた。 ・学年集会や日々の継続的な指導を通して、挨拶や礼儀、他者へ配慮等ができる集団となり、多くの生徒が受験を通して、苦境にも負けない強い心を育み、人間性も向上させた。
職員の健康保持 (衛生委員会)	<p>勤務時間の適正な管理</p> <p>教職員の健康障害防止とメンタルヘルス保持</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多忙化解消に向けた業務の適性化 ・タイムマネジメントを意識した業務の励行 ・愛知県公立学校の教育職員の適切な管理等に基づいた在校時間の管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌において業務分担・業務精選が進められた。タブレット更改に伴い、校務支援システム・グループウェアへの移行を積極的に進めることで、ペーパーレス化のみならず、教職員の業務の軽減に取り組んだ。 ・ほとんどの教職員が19時30分の施錠時間を見据えた働き方をしている。今後もタイムマネジメントの意識づけにつながる声掛けを継続したい。 ・在校時間等の状況記録から、月ごとの時間外勤務の平均は約32時間で、全体としては上限45時間を超過しない状況にあった。一方で、分掌業務や部活動指導のため、月80時間を超過する教職員がいるなど、業務の偏りを解消する方策が必要である。